

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連の日本語ネットニュース「天健ネット」より

大連タクシー価格設定方式が、26日から調整

大連市政府研究の同意によって、大連市物価局及び大連交通局は、2011年5月26日から大連市タクシー価格設定方式を調整する決定を下した。主な3項目は、以下の通りである。

1. 低速時は毎分0.3元徴収
2. 「復路料金」の導入
3. ガソリン代1元増加ごとに、燃油付加料金1元徴収

2011年5月25日

大連のタクシーは、今までは初乗り3キロまで8元、それから200メートルごとに0.4元。支払う時は、角(元以下の単位)は四捨五入し、元単位で支払っていた。夜間割増は3割でメーターを見て、もう夜の10時過ぎたんだと思うことも多かった。

外国人の私たちにも単純で、分かりやすいシステムであり、大連の旧市内中心地であれば、大体どこへ行っても10元札を1枚出せば支払うことができた。

この料金システムが、5月26日から変更された。中国の物価上昇率や道路の状況から考えると当たり前と言えそうで、値上がりすることに対して、それほど大きな反発はないようだが、大きな社会問題の一つの交通渋滞が料金と密接に絡むことになり渋滞解消を望む市民の声がますます大きくなりそうだ。

現在の大連のタクシー事情は、はっきり言って最悪。朝夕の通勤時間帯に、タクシーは全くというほど捕まらず、もし乗れたとしても、当たり前のように相乗りを強要される。ひどい時は、人が多い通りで突然車を止め、相乗りの相手が見つかるまで10分以上も発車しないようなことまである。

また、乗車拒否も当たり前のようにあり、言葉があまりできない外国人だとみれば、何も聞かずに拒否して行ってしまうこともある。また、日本人特有の座る場所の譲り合いなどやっていけば、こんな面倒臭い客をいらないとでも言わんがばかりに、車はサツいなくなってしまう。

とにかく日本のタクシーではありえないことが、大連では当たり前になっている。さらに、大連ではタクシーに乗る人は増えるのに、タクシーが減るという事態も今年になって起こった。これは、偽物タクシーを一掃したからだ。偽物タクシーとは、白タクとは違い、見かけは本物と同じで、営業の許可があるかないかの違いだけだった。中国では、タクシーまで偽物が当たり前のように走っていた。

ということで、タクシーの売り手市場は膨張し、タクシー運転手のわがまま放題が極まりない状態だった。今回の料金改定で、多少なりともその態度が変われば、大連市民も納得するかもしれないが、現実的にはあまり期待できない。

ちなみなに何が上がるかと言うと、①時速12^キ以下が通算5分以上続けば、その低速走行時間の1分ごとに0.3元追加料金が発生 ②20キロを超える遠距離利用の場合は、20キロを超えて支払う部分が5割増しとなる ③ガソリン代(日本のレギュラー)がリッター6.66元を基本価格として、それから1元上がれば1元料金も上がる。①②は運転手の時間給的な賃金補償、③は飛行機にもある燃油サーチャージの導入だ。

現実的に値上げとして代金が発生するのは、③の燃油サーチャージぐらいで、①と②は発生しないのではないかと思う。なぜなら、今、渋滞する方向へ乗ろうとすると乗車拒否され、遠い場所へも行ってはもらえないからだ。

中国のタクシー会社は、車を運転手に貸し、運転手が会社に使用料を払っているという方式で、運転手を教育しサービスを向上してそのタクシー会社のお客さんを増やそうというような発想はなく、サービス内容は運転手まかせだ。

冬が寒い大連では、タクシーは生活の必需品だ。外国人の我々は、値上げしてもいいから必要な時に乗れるようにしてほしいというのが本音。しかし、中国社会全体のマナーの悪さを考えると、運転手のマナー向上を望むのは無理かもしれない。この値上げを期に、少しでも運転手のマナーが向上することを切に期待している。